

オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップで用いた

WEB 会議システムについて

堀越 宙^{1*}、向 哲嗣²、足立 祥吾²

Web conference system used in the Ogasawara Greenfinch PHVA workshop

Sora HORIKOSHI^{1*}, Akitsugu MUKAI² & Shogo ADACHI²

1. 小笠原自然文化研究所 (〒100-2101 東京都小笠原村父島字西町)
Institute of Boninology, Nishimachi, Chichijima, Ogasawara, Tokyo 100-2101, Japan.
2. アイランズケア (〒100-2211 東京都小笠原村母島字静沢)
Islands Care, Shizukazawa, Hahajima, Ogasawara, Tokyo 100-2211, Japan.

* sora@ogasawara.or.jp (author for correspondence)

要旨

2020年12月19日にオガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップの本大会が開催された。また、事前の講演会および報告会も複数開催した。これらの開催期間は、コロナ禍であったため、感染防止対策として、全て WEB 会議システムを使用した。本稿では、講演会や報告会を含め、ワークショップ時における WEB 会議システムとその運用方法についての記録を目的とした。WEB 会議システムとしては ZOOM を選択し、補助として Google Jamboard、Google フォームなどのソフトも併用し、会議運営の円滑化を図った。結果としては、進行に問題はなく、コロナ感染防止対策を行った状態でワークショップを開催することができた。

キーワード

Chloris kittlitz、小笠原諸島、オンライン会議、コロナ感染防止対策、ZOOM 会議システム

1. はじめに

オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ本大会は 2020 年 12 月 19 日に行われた。本大会の前後においても島内外向けの講演会が複数回行われた (表 1)。コロナ禍であったため、一連のワークショップおよび講演会ではひとつの会場に多人数が集まることができず、オンライン上で全てを進める必要があり、アプリやソフトなどを使用して遠隔

で情報共有できるシステムを新たに開拓することとなった。本稿では、ワークショップや講演会などで用いたシステム体制とそれを成立させるための工程を記録として残すことを目的とする。

2. 作業記録

ワークショップ本大会および各講演会で使用したシステムの一覧を表1に示す。特に本大会では、途中でグループ毎に別れて議論を行うなど、変則的な構成であったため、使用したシステムは最も多かった。

表1. ワorkshop本大会および各講演会で使用したシステム

Table 1. System used in the workshop and each lecture

	オガサワラカワラヒワ 講演会	オガサワラカワラヒワ 講演会	オンライン座談会 沖縄の取り組みから学ぶ、 地域の保全の取り組み	オガサワラカワラヒワ ワークショップ本大会	オガサワラカワラヒワ ワークショップ報告会	オンライン講演会 「オガサワラカワラヒワ 全部わかっちゃおう！」
日付	2020年11月13日	2020年11月20日	2020年11月26日	2020年12月19日	2021年1月11日	2021年1月17日
対象者	父島島民 父島のWS参加者	母島島民 母島のWS参加者	ワークショップ 参加者	ワークショップ 参加者	父島、母島島民	島外
参加人数(ZOOM)	89人	57人	56人	111人	51人	運営のみ
参加人数(YouTube)	25人	15人	23人	-	15人	360人
事前のステークホルダーへの参加願ひ(合計66人)	○	○		○		
ステークホルダーへのPC操作補助	○	○		○		
オンライン参加不可の島民用の会場設営		○	○	○		
ZOOM (WEB会議システム)	○	○	○	○	○	○
ZOOMブレイクアウト ルーム機能				○		
YouTube配信 (ネット配信)	○	○	○	○	○	○
Google Jamboard (記入用紙の代替)				○		
Google フォーム (WEBアンケートや投票)	○	○	○	○		
Googleドキュメント (質問のまとめ・リアル タイムの情報共有)	○	○			○	○
LINE (リアルタイムの連絡 ツール)				○	○	○

●ステークホルダーに対する対応

父島島民向けオガサワラカワラヒワ講演会(以下、父島講演会)、母島島民向けオガサワラカワラヒワ講演会(以下、母島講演会)は、本大会前の情報共有を兼ねていたため、本大会に参加予定のステークホルダーが参加することが必須条件であった。そのため、ステークホルダーの各個人に参加要請を行い、都合が付かない場合には動画配信サイトで後日閲覧してもらうなどの対応をした。

●オンライン参加不可の島民用の会場設営

ステークホルダーのうち数人が自宅などにネット環境が無く、オンラインでの参加が困難であったため、コロナ感染対策を実施した会場を複数設営した。

●ワークショップの録音方法

ワークショップの内容を確実に記録するため、様々な録音方法を使用した。メインに使用していた WEB 会議システム「ZOOM」上の機能でも録音は可能であったが、回線の不具合などが起こった際の対策として、IC レコーダーなどの機器を使用し、会場での録音も行った。

●ZOOM (WEB 会議システム)

WEB 会議システムのソフトは ZOOM を選んだ。選定理由として、ZOOM は小笠原での講演会などで既に使用された実績があり、インストールや参加方法の簡略化を重視しているソフトであるため、参加者への負担が少ないためである。また、ZOOM にはブレイクアウトルームという機能があり、会議の途中に参加者をグループ分けし、会議を中断することなく各グループごとに議論が可能であったこともメリットのひとつであった。

WEB 会議システム全般で言えることではあるが、ZOOM を使用する上でのデメリットは、参加者の自宅などにネット環境が無い場合や PC 操作に不慣れな人がいる場合に、個別対応が必要なことであった。

ZOOM を使用する上で特に注意した点は、会議途中の回線切断であった。対策としては、ホストを複数人設定する、有線 LAN を使用する、自宅回線を使用するなどのネット回線の分散を行った。結果としては、111 台の PC で回線接続された本大会を含め、全ての講演会で ZOOM 全体の回線切断は起こらず、個人の回線切断のみに落ち着いた。個人の回線切断の理由としては、参加者宅のネット回線の強度や、古い PC やスマホを使用するなど ZOOM ソフトを使用している媒体の影響だと思われる。また、1 つの PC で多人数が参加する場合、音量やカメラの調整が困難だったため、極力少人数で使用する事とした。

●YouTube 配信 (ネット配信)

父島講演会や母島講演会にどうしても参加できないステークホルダーが、講演会内容を後日確認できるように YouTube 配信のアーカイブ機能を使用した。また、YouTube 配信を使用するにあたり、WEB 会議システム (ZOOM) よりも YouTube 視聴の方が、参加者のハードルが低いと思われたため、オガサワラカワラヒワを知ってもらう門戸を広げるために ZOOM での講演会を YouTube においてライブ配信を行った。

YouTube 配信を使用する上でのデメリットとしては、ZOOM の映像をリンクさせている影響からか、YouTube 上の動画が不安定になる場合があったが、補助的な役割として使用するには充分であった。

YouTube 配信を使用する上で特に注意した点は、オガサワラカワラヒワの保全に全く関係のない第三者の視聴と動画の拡散であった。対策としては、公開期間やメンバーを限定的にしたり、事前配布した URL からのみ視聴できるようにした。

●Google Jamboard（記入用紙の代替）

Google Jamboard は、本大会の議論内容をまとめるホワイトボードや画用紙の代替として使用した。議事項目の下書き、PC での操作方法の確認、記入者とファシリテーターとの役割分担などを事前に行う必要があり、ホワイトボードや画用紙よりも事前準備に時間も手間も必要であった。しかし、デジタルの利点である、共有のしやすさ、複数人での記入編集ができるなど、本大会ではその有用性を発揮することができた。

●Google フォーム（WEB アンケートや投票）

本大会の開催前にオガサワラカワラヒワに関する懸念事項や対策などのアンケートを集計したり、本大会での投票を行うために Google フォームを使用した。父島・母島講演会時には ZOOM およびメールで URL を送り、記入してもらった。ネット環境が無い人には、印刷した用紙に記入してもらい、事務局で Google フォームに記入し直した。

Google フォームは集計も自動で行えるため、集計漏れもなく、迅速に結果を共有することができ、本大会の最中にも使用された。今回、印刷用紙を使用した人は少数であったため、コロナ禍でなくても有用だと思われる。

●Google ドキュメント（質問のまとめ、リアルタイムな情報共有）

Google ドキュメントは、複数人が同時に編集可能なネット上の文章作成ツールであり、本大会や講演会中に出た質問や情報を事務局内でリアルタイムに共有するツールとして使用した。事務局の全員がオンライン参加であったため、ZOOM の起動中でも Google ドキュメントの閲覧編集が可能であった。YouTube 上で多数のコメントや質問が寄せられた場合には、Google ドキュメントに質問を列挙・取捨選択して、事務局内で質問の優先順位を選ぶこともできたため、円滑な進行の助けとなった。

●LINE（リアルタイムの連絡ツール）

事務局内での細かい連絡ツールとして LINE を使用した。Google ドキュメントとは異なり、その場限りの連絡や個人への連絡に役立った。事務局メンバー内のグループ分けも容易で、円滑な進行の助けとなった。

3. 考察およびまとめ

コロナ感染対策を実施した上で、WEB 会議システムを使用したワークショップを開催するためには、様々なソフトや機器が必要になる。今回行ったオガサワラカワラヒワ保全対策作りワークショップでは、ZOOM を WEB 会議システムのメインに据え、複数の補助ソフトを使用した。メインの ZOOM をはじめ、補助ソフトにおいても、事前の操作方法の確認や設定の変更が必要であり、ワークショップや議論の準備とは別にシステム専門の運営グループを設けた。結果として、事前の準備時間は増したが、ワークショップの進行で

大きな不具合は発生せず、無事に遂行することができた。

実際にワークショップを運営する上で、特に重要だと思われたのは、WEB 会議中の情報共有の円滑化であった。今回、情報共有のために使用したのは Google ドキュメントと LINE であったが、目的ごとに2つのソフトの使い分けることにより、円滑な進行ができた。

今回、使用したソフトや機器は、今後も機能の追加や改善が行われ、代替のソフトや機器が発売されると思われる。今後も大規模なワークショップや会議が行われる場合には、その都度、ワークショップや会議の進行に適したソフトや機器の選択が重要になると思われる。

4. 謝辞

ワークショップのシステム運営を先頭で支えて頂いた宮城雅司氏をはじめ、両角健太氏、磯部純子氏、右田裕子氏、横山康子氏、加賀芳恵氏、荒井太一氏、高橋千佳子氏、小林佳子氏、菅生和希氏、田谷以生氏にはワークショップ本大会前後の数日にわたってご協力頂いた。ここに深い感謝の意を申し上げたい。

SUMMARY

Web conference system used in the Ogasawara Greenfinch PHVA workshop

Sora HORIKOSHI^{1*}, Akitsugu MUKAI² & Shogo ADACHI²

1. Institute of Boninology, Nishimachi, Chichijima, Ogasawara, Tokyo 100-2101, Japan.

2. Islands Care, Shizukazawa, Hahajima, Ogasawara, Tokyo 100-2211, Japan.

* sora@ogasawara.or.jp (author for correspondence)

The Ogasawara Greenfinch PHVA workshop was held in December 19th, 2020, and several lectures and debriefings were held before and after the workshop. Because the whole period of the workshop and other events was in the midst of the COVID-19 pandemic, we decided to conduct all events using a web conference system as the infection prevention measures. The purpose of this paper is to document the operations of web conferencing system. We chose 'ZOOM' as our web conferencing system, and used software such as 'Google Jamboard' and 'Google Forms' to assist the conference management. As a result, no problems occurred through all workshop processes, and we were able to hold the workshop with COVID-19 infection prevention measures.

Key words

Chloris kittlitzii, Infection prevention for COVID-19, Ogasawara Islands, Online conference, Zoom web conferencing system